

4 別れの言葉

死を前にして、人はどんな言葉でお別れを告げるのでしょうか。

「ありがとう」「ごめんなさい」「許します」「愛してます」「さようなら」というのが、欧米などでよく言われる別れの言葉だと言います。

公民館などで講演をした後に、「あなただったら、どんな言葉でお別れしますか」と問いかけると、たいがい「ありがとう」「世話になったな！」という感謝の言葉が返ってきます。

一番少ないのは「愛してます」。さすが日本人。

「さようなら」というのも、なかなか言いにくいみたいです。

亡くなる人の言葉というのは、亡くなる当人の支えになるかはわかりませんが、残る者の支えにはなりません。

そういう言葉を自然体で出せたらいいんですけど、そうでなくても、例えば無言とこのもいいかもしれません。

ただ、思いのこもった目で見つめるだけでも、何かしらのメッセージが伝わるのではないのでしょうか。

気取らない短い言葉が残る者の支えになる

永田和宏ながたかずひろさんという短歌を詠む生物学者の方が、こんなエピソードを語っておられました。

恩師が膝がんの末期になられて、お見舞いに行かれたときのことで。

「ありがとうございます」「言おうとして病室に入られたんですが、他の話をしているうちに言いそびれてしまったと。

それで「失礼します」って病室を出かけたのですが、そのとき恩師の方に「永田くん、ありがとう！」って背中の方こうで言われたのだそうです。

自分が言うべき言葉を逆に言われたときに、そこで立ち止まった、ということでした。